

◆宮本町まちなか交流館

富岡市宮本町商店街振興組合は昭和54年10月に設立。創業100年前後の老舗も多く、趣のある商店街である。

同交流館は、平成20年に富岡市から委託を受けて開業。マイカー専用の駐車場を併設しており、約80台収容できる駐車場は、11時～14時のピーク時には、連日、満車状態とのこと。開業当時は、机を並べただけの簡易な商品棚に組合員が持ち寄った商品などを陳列していたが、徐々にアイテム数が増え、今では、専用の商品棚に数多くの商品が所狭しと並べられている。なお、同交流館は観光のお客様のニーズを探るアンテナショップとしての役割も果たしている。

本年6月21日、世界文化遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」。富岡製糸場は、休日はもとより、平日でも多くの観光客が訪れるほどの賑わいである。今回の組合訪問は、製糸場の近くで、富岡市より委託を受け、交流館の運営を行う協同組合と振興組合をご紹介します。

●富岡市宮本町商店街振興組合●



煉瓦づくりでデザインされた交流館

◆商店街の新たな動き

当商店街は、上州富岡駅から製糸場に向かう人々の通り道であるため、新たな人の流れが生まれている。そこで、新たな店舗の出現や改築などの動きが見られる。

また、7月には、「お富ちゃん広場」がオープンした。公園内には遊歩道が伸び、奥の路地へつながっている。回遊性が高まり、買い物を楽しむに加えて、散策する楽しさが加わった。このように徐々に環境整備が進む中、組合員の意識にも変化が生まれ、組合では、よりお客様に楽しんで頂くための商店街づくりを目指している。

こぼれ話

商店街にお祭りはつきものである。富岡市内のお祭りは山車が主役だが、子供の時期に、山車で笛や太鼓を経験できなかった大人も祭りに参加したいという思いを受け、宮本町では「大人神輿」を製作した。市内で唯一、神輿を所有している。10月下旬に開催される「どんと祭り」では、多くの神輿好きの大人が宮本町に集まる。

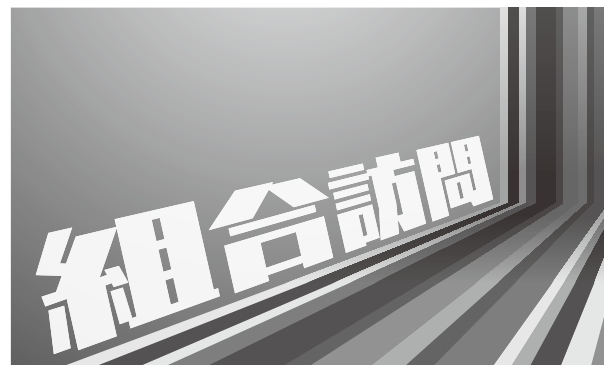


製糸場方面の裏通りに抜ける「お富ちゃん広場」

組合の概要

- 所在地 富岡市富岡1406-4
- 代表理事 名和清一
- 出資金 1,900千円
- 組合員数 19名
- 主な事業 交流館運営、共同宣伝・販売促進事業、教育情報提供事業
- 成立年月日 昭和54年10月16日
- 交流館開店 9:00～17:00





● 富岡市仲町事業協同組合 ●

◆ 仲町まちなか交流館

富岡市仲町事業協同組合は、仲町通りの有志で平成22年に設立。同年、富岡市より交流館の運営委託を受けた。

同館は、製糸場入口から約200m手前の交差点に位置する。予約バスの駐車場を併設しており、富岡製糸場が開場する9時に合わせて、県内外の大型バスが集まってくる。スタッフは観光客の接客に追われる中、観光客からの数々の質問にも笑顔で対応するなど、観光案内所としての役割も果たしている。

また、地元のお客様の来店も多く、スタッフとの楽しい会話を弾ませる姿も見受けられ、訪れる人達の憩いの場となっている。



板張りの外壁で純和風な雰囲気交流館

◆ 地域住民による「街づくり」

昨年12月8日、地域の人達に交流の場を提供するため、交流館の駐車場を使って、「まちなか・せいせん・まつり」を開催した。同イベントでは、地元、富岡実業高校の生徒達にもテント販売などの協力を得て、地域との結びつきをより強めることができた。実業高校で作る野菜や卵は交流館の人気商品のひとつである。

交流館の周辺は昼間の賑わいが一段落すると通りの人通りは疎らになる。そこで今後も、組合では地域住民との交流を通じてニーズを掴み、交流館を核とした賑わいの創出を目指す。



ゆるキャラも参加し賑わったすいせんまつり

こぼれ話

交流館の店内の壁には、様々な家紋のようなマークが飾られている。それは、自治体を象徴する「市章」で、日本全国の市章が並んでいる。普段、市章を目にすることは少ないと思うが、交流館では観光客が自分のまちの市章を探す姿を見かける。さりげないおもてなしかもしれない。

組合の概要

- 所在地 富岡市富岡1025-1
- 代表理事 松島和雄
- 出資金 850千円
- 組合員数 17名
- 主な事業 交流館運営、共同宣伝・販売促進事業、教育情報提供事業
- 成立年月日 平成22年3月1日
- 交流館開店 9:00~17:30
9:00~17:00 (冬期)

